

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
発行人 前田 千太郎
編集者 田中 西三郎
印刷所 東京都千代田区西神田
電話 2426・2932
電報 3-36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なうべき教育上極めて重要な行事である。従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常態の改善に努力しつづつ教育効果の充実に努める事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
(財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から)

自己教育力の育成をめざして

修学旅行研究大会ひらく



研究大会参加者による研究協議

次代を担う青少年の

人づくりへ熱意結集

関東地区公立中学校修学旅行委員会(滝嶋三三会長・川崎市立川越第一中学校校長)および全国修学旅行研究協会(山本種一理事長)主催による「自己教育力を育てる修学旅行」次代を担う青少年の人づくりをめざして「テーマ」とする修学旅行研究大会は、十月二十一日大宮市民会館で開催され、三百名にのぼる全国からの参加者の熱意を結集し、盛況に終った。

この研究大会は、文部省をはじめ、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県および大宮市の各教育委員会、埼玉県中学校長会、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会の後援により、埼玉県の大宮市民会館において開催された。

自己教育力を育てる 修学旅行

文部省教科調査官 高橋哲夫氏



高橋哲夫氏

一、学校教育の現状と課題
(1)子どもの実態から
校内暴力をはじめ、反社会的問題行動は減少しているが、一方、登校拒否を代表する対人関係不適応を中心とする、非社会的問題行動が増加している。また「アパシー」の総称がふさわしい「感じない」子どもがふえていっている。したがって、心の豊かさを調和のとれたパーソナリティ、たくましい精神、集団のなかで自己を主張し、個性を伸ばすことのできる子どもの育成が現在最も大切である。
(2)中教審審議経過報告と臨教審一次答申から
両者から共通に提起されている今後の学校教育の課題として

「主体的に学ぶ、意志、態度、能力」であり、広義の「自己学習力」であるといえる。その育成のためには、「問題解決的・問題探究的学習法」などが基本となり、特別活動や修学旅行においても重視されよう。
(2)自己教育力と自己指導力
「自己指導力」の育成は生徒指導の究極的な目標であり、「他の援助なしに、主体的に物事を」選択し、判断し、決定し、実行できる能力」である。したがって、「自己教育力」「自己学習力」は、生徒の自己表現に必要で、自己教育力の育成、基礎基本の本重視、個性の尊重などがあげられ、教育における「不易の本質」としてとらえねばならない。特別活動の領域や修学旅行はこの課題達成のための重要な工夫や改善が必要である。
二、自己教育力と自己指導力
(1)自己教育力の意義と育成の観点
今後の情報化社会に生きて自己実現を果すのに必要な内容を

「主体的に学ぶ、意志、態度、能力」であり、広義の「自己学習力」であるといえる。その育成のためには、「問題解決的・問題探究的学習法」などが基本となり、特別活動や修学旅行においても重視されよう。
(2)自己教育力と自己指導力
「自己指導力」の育成は生徒指導の究極的な目標であり、「他の援助なしに、主体的に物事を」選択し、判断し、決定し、実行できる能力」である。したがって、「自己教育力」「自己学習力」は、生徒の自己表現に必要で、自己教育力の育成、基礎基本の本重視、個性の尊重などがあげられ、教育における「不易の本質」としてとらえねばならない。特別活動の領域や修学旅行はこの課題達成のための重要な工夫や改善が必要である。
三、修学旅行の意義と果す役割
(1)特別活動と修学旅行
修学旅行が学校行事の一つであることから、とくに、前の前

「主体的に学ぶ、意志、態度、能力」であり、広義の「自己学習力」であるといえる。その育成のためには、「問題解決的・問題探究的学習法」などが基本となり、特別活動や修学旅行においても重視されよう。
(2)自己教育力と自己指導力
「自己指導力」の育成は生徒指導の究極的な目標であり、「他の援助なしに、主体的に物事を」選択し、判断し、決定し、実行できる能力」である。したがって、「自己教育力」「自己学習力」は、生徒の自己表現に必要で、自己教育力の育成、基礎基本の本重視、個性の尊重などがあげられ、教育における「不易の本質」としてとらえねばならない。特別活動の領域や修学旅行はこの課題達成のための重要な工夫や改善が必要である。
四、自己教育力を育てる修学旅行
(1)基本的な視点

「主体的に学ぶ、意志、態度、能力」であり、広義の「自己学習力」であるといえる。その育成のためには、「問題解決的・問題探究的学習法」などが基本となり、特別活動や修学旅行においても重視されよう。
(2)自己教育力と自己指導力
「自己指導力」の育成は生徒指導の究極的な目標であり、「他の援助なしに、主体的に物事を」選択し、判断し、決定し、実行できる能力」である。したがって、「自己教育力」「自己学習力」は、生徒の自己表現に必要で、自己教育力の育成、基礎基本の本重視、個性の尊重などがあげられ、教育における「不易の本質」としてとらえねばならない。特別活動の領域や修学旅行はこの課題達成のための重要な工夫や改善が必要である。
五、見学訪問先を精選し、学習活動を厚みのあるものにする工夫、改善が必要である。

西山監事叙勲



西山文男氏

西山文男氏(財団法人全国修学旅行研究協会監事・前三重県支部長)は、永年の教育関係の功績により、十一月三日、勲五等瑞宝章を受章された。
西山氏は三重県の小学校長・校長会長を務め、昨年は文部大臣から学校給食労働者表彰を受けている。

風紋

十一月下旬NHK再放送「女三人旅」を観た。各地遍歴の途次、それぞれにドラマがこり、終着駅に達した時三人三様の自己発見の旅であったというお話。芭蕉は伊賀上野の出、初め土木工事の足元をしながらの俳諧の道を行く学生、ようやく江戸で宗匠になったが、三年足らずその職にあきたらず、脱日常の旅が精進の早道と悟り、旅を積み重ね、心の遍歴の境地に達した。ルソも「ひとり徒歩で旅した時ほどゆたかに考え、ゆたかに存在し、ゆたかに生き、あえていふならば、ゆたかに私自身であったことではない」と。両者いずれも自己発見の旅といえる。団体旅行でも孤独をかみしめることはできる。かつてブルー・タウトは「日本の鉄道は伝統ある文化を破壊する」といったが、今日はその比でない。観光地にしても、旅の楽しみは表面にあらわれた欲望だけをとりえらるるよりは、(○)教育の影響も知れない。虚と実を見抜くことが必要である。天の橋立の股のそき「風景と自分だけの世界の儀式ともいえる。京の「哲学の道」は思索の散歩道。リルケは「目立たない美しさをもつ多くのものを前を言人のように通り過ぎ、定評のある作品のまわりに駆けよるが、多くの場合失望させる。作品と自己の間に親近感がない……案内書には、それを見よ(かげ)でよい」(フィレンツェ)だより。人間は考える葦といわれる。自然や仏像を味わった後の自分を見つめる目は養える。アンドレ・ジイドの「コンゴ紀行」の冒頭のことば。「思慮なく動くかぬものたらんよりは、思慮もなく動くものたれ」キーツ。

修学旅行を通じての自己啓発

関東修学旅行研究協会副委員長 滝田 潔氏

この研究報告は、関東・東海近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会による修学旅行実態調査報告(五十八・五十九年)を分析考察し、修学旅行を通じての、児童生徒の自己啓発のあり方を追求したものである。この調査によれば、修学旅行のマンネリ化を打破し、自主学習・体験学習を取り入れて、積極的に改善充実を促している学校がある。一方では、問題行動対策で余裕のない学校もあるが、このような学校でも修学旅行を、学校啓発の機会として活用している。一方では、問題行動対策で余裕のない学校もあるが、このような学校でも修学旅行を、学校啓発の機会として活用している。
「なぜ、修学旅行に行くのか」の原点を、全校の職員が共通理解をはかり、これを児童生徒に及ぼし、自分で考える旅行。自分が企画する旅行。自分で運営する旅行にまで高める必要がある。
自己教育力育成の観点から修学旅行を考察すると、事前指導では、参加意欲の高揚、学習の仕方を学び、旅行中の貴重体験等、これ等の三つが総合され自己啓発(自己開眼)の機会が与えられるのである。
修学旅行の総合的学習活動としての役割は大きく、今後一層の改善充実をはかりたい。



報告する滝田潔氏

「先生、ステキな修学旅行をありがとう」

生徒の笑顔を大切に… ツーリストの修学旅行。
生徒たちの青春を飾る思い出深いワンシーン。修学旅行は、より有意義な旅にしたいですね。ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する修学旅行は各方面より多大なご好評を得ています。それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。

近畿日本ツーリスト 本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111 営業所/国内242所(登録)/海外13ヶ所
◎運輸大臣登録一般旅行業第20号

講演要旨

現代青少年の心理と集団活動

筑波大学教授 加藤隆勝氏

一、はじめに
今回は現代青少年の実態から、集団活動・学校行事等が何故重要であるかについてのべてみたい。

方としては、学校活動、生徒会活動等の生徒の日常における自主的活動を充分育成し、生徒同士の中に規制が生ずるような方向が望まれる。学校教育の節である学校行事の充実、日常の教育活動の充実によって可能になることを望む。

二、大人への離反と仲間への同調性
今の子どもは小学生時代からものごとく感動を示さず、大人に対して冷たいといわれる。また自分より小さい者に対しても同様である。この同年代の者への同調性、年齢のあたる者への冷たい傾向は全世界的なものである。いわゆる現代青少年文化の特徴である。

三、希薄な自己と社会との結びつき
子どもたちに将来の生活の願いを聞くと、私生活、個人生活の充足に大きく傾斜している。そして社会的、公共的なものに対する関心が低い。予測困難な将来よりも、現在の幸いを求める結果となっている。社会の発展がなくては個人の充実はないのであり、自己と社会の結びつきを回復する必要がある。思いやりの心とは、自己への愛を他者への愛に転じていくことである。自己愛を純化し、公化して人間愛にまで高めていくことである。この自己愛から他者愛への断絶を埋めるものは、家庭教育であり、学校教育である。他人に迷惑をかける人間でなく、積極的に他者に働きかけ、他者のために役立つ人間づくりに望まれる。この意味で実践活動、集団活動である修学旅行等が重要である。



加藤隆勝氏

（一）急激な社会変化で、数年前と比べて異なる。実践活動の軽視からきている。受験競争のため知識はペーパーの上の

（二）急激な社会変化で、数年前と比べて異なる。実践活動の軽視からきている。受験競争のため知識はペーパーの上の

（三）急激な社会変化で、数年前と比べて異なる。実践活動の軽視からきている。受験競争のため知識はペーパーの上の

（四）急激な社会変化で、数年前と比べて異なる。実践活動の軽視からきている。受験競争のため知識はペーパーの上の

辻原弘市理事を悼む

財団法人 全国修学旅行研究協会

理事長 山本種一

昭和六十一年十月十九日、辻原弘市君が自らの生涯の仕事として創設に力を注いだ国際武道大学の野球場開きに出席する途中、千葉県勝浦市の国鉄勝浦駅構内で心筋こうそくのため忽然として逝去した。六十二歳の若さで突然不届の客となったのである。
悲報に接した私は耳を疑いとして深い悲しみに包まれながら、その折その折の彼の親しみのこもった風貌を思い出し人の命のはかなさをこれ程感じたことはなかった。

彼の出会いは終戦後間もない動乱の頃であった。互いの間の信頼は厚かったのである。全修協が全国に亘って修学旅行研究大会を開催するに当たっても、白滝末紀君を助けて文部省の後援を取りつけるなど、自ら難に赴く彼本来の性格そのままに協会の事業に惜しみなく尽くされた。
若して誇らない人間性と比類ない友情を思ふ時、惜別の悲しみに包まれた中で厳かに執り行われた。彼の人格を慕い、永遠の別れを告げる各界の参列者の列が長く長く続いた。心から幸福を祈る次第である。

辻原弘市氏（つじはらひろし）は、財団法人全国修学旅行研究協会理事・元衆議院議員。十月十九日午前十一時五十分、心筋こうそくのため千葉県勝浦市で急逝されました。享年六十二歳。
葬儀は二十一日東京新宿の太田寺で、また、財団法人日本武道館・学校法人国際武道大学・日本対外文化協会の合同告別式は十一月五日東京芝の増上寺会館で、それぞれ盛大に執り行われました。
生前のご功績を讃え、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

修学旅行実態調査
まとめの段階に
三地区 修旅連
関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（佐々木達三会長・京都府長岡京市長岡第四中学校長）の臨時総会が、十月二十三日埼玉東大宮市で開催され、修学旅行の実態調査、研究発表等の活動要領を決定し、この研究調査の三年間の総まとめを行うことを決めた。
会議は本田副会長の開会の辞、佐々木会長、財全修協山本理事長の挨拶の後、佐々木会長を議長に選任、議事に入った。
報告事項は、(1)要保護・要要保護家庭並びに、き地校の児童生徒に対する修学旅行費用補助金増額陳情の件、(2)関係委員催関西現地研修会実施状況について、(3)修学旅行研究大会アンケート結果報告の三件で、特に(3)については回答教員名中15名

昭和61年春 新館増築「北嶺」オープン (130名収容) 座禅体験で "心、リフレッシュ!!"
<国際観光旅館> 比叡山 延暦寺会館
TEL 0775-78-0047・0554
EX 5464-917
FAX 0775-79-5053

いらっしやいませ びわ湖国定公園 近江路の旅へ
収容 600名様
浴場 150名様
設備 全館冷暖房
防災 諸設備完備
駐車場 バス20台
政府登録 国際観光旅館 ビワ湖リゾートホテル
大津市におの浜3丁目2-25 電話 大津(0775)24-2321

防炎布団リース
●御指導先 販売もいたします。
京都市消防局
近畿日本ツーリスト㈱
防炎寝具製造認定工場
ミラタ寝具工業所
〒612 営業所 京都市伏見区京町5丁目77-7 ☎075(601)5371(代)
〒610-01 工場 京都府城陽市観音堂甲畑57 ☎07745(2)0191

京都市火災予防条例改正により
—防炎寝具の使用—
☆防炎寝具の使用に関する規定を盛り込んだ京都市火災予防条例改正案が昭和59年11月29日市議会で可決制定され、同年12月13日に公布、即日施行となった。(防炎具の使用)
第46条の5 次の各号に掲げる防火対象物又はその部分において使用するふとん毛布、まくら、敷布、その他の寝具類は、防炎性能を有するものとするように努めなければならない。
(1) 令別表第1(5)イ並びに(6)項イ及びロに掲げる防火対象物 (5)イ旅館・ホテル又は宿泊所
(2) 令別表第1(10)項イに掲げる防火対象物で、前号に掲げる防火対象物の用途に供する部分